



平成22年9月26日(日)

50周年記念式典



アカペラによる独唱
川崎 康子様



開会宣言
50周年実行委員長
井上 裕嗣



JCI クリード唱和
副理事長
中山 稔之



JC 宣言朗読並びに綱領唱和
副理事長
長田 智宏



ブルーエリア宣言
地域連携推進委員会委員長
赤木 朋央

理事長挨拶

只今、ご紹介を頂きました社団法人 西大寺青年会議所 第50代理事長を仰せつかっております小川大志と申します。高い席からではございますが、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、ご来賓の皆様、公益社団法人 日本青年会議所 中国地区岡山ブロック協議会 会長を初めとする役員団、運営団の皆様、そして県内14LOMの理事長様をはじめとされます各地青年会議所の現役メンバーの皆様、そして西大寺青年会議所 第二代理事長 野口信一先輩をはじめとされます敬愛する特別会員の皆様、私ども西大寺青年会議所創立50周年記念式典にご臨席を賜りましたこと、現役会員を代表致しまして、心より厚く御礼を申し上げますとともに、このように盛大に開式できたこと、心より深く感謝申し上げます。

戦後の復興を目指し、日本の明るい豊かな社会の実現を目的に、青年会議所は誕生致しました。その11年後1960年11月29日「なんとしてでも、この西大寺エリアを明るい豊かな地域にしたい」という熱い想いを抱いた志高き35名の青年が集い、岡山青年会議所のスポンサーのもと、全国で196番目に西大寺青年会議所が誕生致しました。

それから50年、創立当初の想いを胸に、「明るい豊かなブルーエリア実現」のために、様々な運動を展開して参りました。

こうして記念すべき節目を迎えることができたのも、本日ご臨席を頂きました皆様と、そして永きに亘りこの西大寺地域のために、英知と勇気と情熱を持って青年会議所運動を継続してこられた特別会員の皆様方に改めて敬意を表します。

西大寺青年会議所は、岡山県重要無形文化財である、そして本年度500周年を迎えた西大寺会陽はだか祭り、牛窓唐子踊り、美しい吉井川、そして日本のエーゲ海と呼ばれる瀬戸内牛窓の海、自然に恵まれ、そして伝統文化あるすばらしい街でございます。

創立当初の混沌とした世の中から、日本はだんだんと豊かな世の中へと変わってきました。昔に比べ現在は、「便利な世の中」と良く言われます。しかし、

「便利は不便」という言葉もございます。電子機器や情報ネットワークが発達し、パソコンや携帯電話の画面ごしで、相手の表情や感情を掴みづらい状況でのコミュニケーションが増えてきました。

何十年か前の日本は、近所のおじさんから叱られたり、躰を受ける事も少なくなく、他人であろうが我が子であろうが、未来を担う子供たちに、日本人として、人間として、男として、女性として、様々な角度から、「大切にすべきこと、行ってはならないこと」を子供たちに教え、この国やこの地域を良くしていこうという思いを、街の人、そして市民一人ひとりが持っていたように思います。しかし現在はどうか。そのような思いがあっても、他人の子供を叱ったり、ましてや躰をすることなどは、社会的に難しい世の中になっているのではないのでしょうか。

日本人が大切にしてきた「人と人との和」、そして「道徳心」というものが薄れてきてしまっているように思います。

そんなことを感じていた頃私は、青年会議所に出会うことができました。会員は各企業の重要なポジションについている人ばかりで、忙しいはずなのにプライベートや会社の貴重な時間を使い、地域の活性化のため、そして未来を担う青少年の育成のために真剣に取り組み、そしてその取り組みを通して自分自身を磨いている姿に、衝撃を受けると同時に「私もそうありたい」と思う自分に気づかせて頂きました。青年会議所という組織は、初めてお会いした先輩から叱られたり、励まされたり、時にはヒントだけを頂き自分自身で考える機会を与えてくれたり、まさに叱咤激励を頂戴することができ、またメンバーとは事業などを通してJCの三信条である修練・奉仕・友情を共感することができる、すばらしい組織です。青年会議所運動を通して、地域の率先リーダーが一人、一人と育ち、その地域に青年会議所運動をした人が増えることにより、愛郷心を持った人が増え、明るい豊かなブルーエリアの実現に近づくのだと、確信しております。



先ほどオープニング映像の中にもありましたが、混沌という未知の可能性を切り拓き、確かな時代を築くために率先して行動してきた青年会議所は、今、また混沌とした時代に直面しています。西大寺青年会議所はこの50周年を契機に、今こそ原点に立ち帰る時とっております。ここでお誓い申し上げます。

混沌とした時代を切り拓いていくために、諸先輩方が運動してこられた偉業をしっかりと受け継ぎ、継承していくもの、進化させていくものを見極めながら、光り輝く街、光り輝く人を創造していく運動を行い、次なる55年、60年、そして明るい豊かなブルーエリア実現に向け、青年会議所運動を力いっぱい邁進していくことをお誓い申し上げます。

結びになりますが、社団法人 西大寺青年会議所に対しまして、今後も皆様から変わらぬ、そして更にご支援とご指導ご鞭撻を頂戴できますことを、心より切にお願い申し上げます。はなはだ簡単粗辞ではございますが、創立50周年記念式典 理事長のご挨拶に代えさせていただきます。

本日は、長丁場になりますが、最終最後までどうぞ宜しくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございます。

を繋げ〜

社団法人



来賓代表祝辞



野口信一先輩挨拶

皆さん、こんにちは。紹介いただきました、二代目の理事長、野口でございます。

本日は、西大寺青年会議所創立50周年、誠におめでとうございます。

私が立っておりますこの場所に、本来ならば、初代理事長の大森寿夫さんが立っていらっしゃるはずなんですけれども、昨年、お亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

私も、JCを卒業して45年、もう85になりますので、創立時代のことは大分記憶が薄れております。私の記憶が正しければ、初代理事長の大森さんが、岡山JCを卒業される年、つまり40歳の時に、西大寺にもJCを作ろう、ということで、松田先輩と共に西大寺の主だったところに電話をされ、JCの説明や勧誘に1軒1軒回られまして、35名のメンバーで、岡山JCのスポンサーで誕生したのが西大寺JCであります。初代理事長に大森さんが就任されましたから、大森さんはJCを1年留年されたことになるんです。JCの留年は非常に珍しいんじゃないでしょうか。

大森さんに色々ご指導をいただきまして、「おめえ、やれえ」いうことで、私が二代目の理事長に就任した次第であります。私の理事長時代の思い出といたしましては、ボーイスカウトの第4団を結団したということです。そのボーイスカウトも、諸般の事情で、本年、解団されると聞いております。団長の羽原君には大変長い間お世話になり、青少年の健全育成にご尽力くださったことに、心からお礼を申し上げます。

私が理事長の年の全国会員大会は、岐阜でありました。時のアメリカ駐日大使のライシャワーさんが出席され、夜は長良川の鶺鴒の見物を一緒にしたのをよく覚えています。

例会の後に岡山の街に繰り出すのも楽しみでした。その頃の岡山の街は大変賑やかだったように思います。

そして、JC仲間、何でも話し合える友達ができました。これもJCのおかげだと思っております。

西大寺JC50年。従って、50名の理事長が誕生したことになります。その年、その年の理事長の下、若い力と情熱をもって、地域社会の発展に貢献してこられたこと、OBの一人としてうれしく、感謝申し上げます。

来年は、18名のスタートと聞いております。発足時が35名、多い時には50名を超えた時もあったやに思います。18名はさびしいです。何とか会員の増強をお願いしたいもんだと思っております。日本列島隅々まで不景気、少子化の中でメンバーを増やすのは大変なことだろうと思っておりますけれども、考えてみれば西大寺JCのエリアは広いんです。探してみればいい人がいっぱいいるんじゃないでしょうか。どうか会員の増強をよろしくお願いいたします。

西大寺青年会議所の今後ますますの発展とご活躍を祈念いたしまして、50周年お祝いの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。



スポンサーJCへ
感謝状並びに記念品贈呈



社団法人岡山青年会議所
第60代理事長
岸本 浩二 様

姉妹JC、中華民国
岡山（かんしゃん）国際青年商会
楊明麟（よう めいりん）会長
祝電紹介

本日、社団法人西大寺青年会議所創立50周年の式典に当たり、台湾岡山国際青年商会の会長として弊会を代表し貴会に祝福と祝賀の気持ちを申し上げます。

西大寺青年会議所と岡山国際青年商会が姉妹JCの締結をして、40周年目になりました。毎年いろいろな形で交流し、先輩たちと各会員様の深い友情のもとに、育てはぐくまれて、現在の友好関係になってまいりました。この場をお借りして、皆様に感謝の気持ちを伝えさせていただきます。両会の友情が末永く続けられ、次は倍の80周年を迎えられるように願っております。

私たち岡山国際青年商会は貴西大寺青年会議所の50周年の式典、祝賀会が円満にとりおこなわれ、これからの貴会のますますのご盛隆と、各会員様の御健康をお祈り申し上げます。

本日はおめでとうございます。



歴代理事長 感謝状並びに記念品贈呈







菅田会長挨拶

岡山盲ろう者友の会会長の菅田小百合と申します。本日は、西大寺青年会議所創立50周年、本当におめでとうございませう。この記念すべき年に、盲ろう者への支援事業を行っていただき、友の会一同、とてもうれしく思っております。支援に当たり、盲ろう者を理解するために、友の会に何度も足をお運びくださいました。会員の皆様との交流会も企画していただき、心のバリアをなくす努力をしていただき、本当にうれしく思っております。

先日は、チャリティ映画会での募金24万円を、わざわざ届けていただきました。心よりお礼申し上げます。

そして本日は、パンフレット作製費用もご寄付いただき、心より感謝申し上げます。パンフレットは、一人でも多くの盲ろう者に友の会の存在を伝え、家庭に閉じこもっている盲ろう者の掘り起こしなどに役立てていきたいと思っております。仲間の存在を伝え、孤独な盲ろう者をなくし、通訳介助者のサポートにより、自由に社会参加できることを伝えていきたいと思っております。今後とも、岡山盲ろう者友の会へのご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、西大寺青年会議所様の益々のご活躍とご発展を心からお祈りいたしまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。





50周年記念
祝賀会













西大寺会陽太鼓



岡山学芸館高校ダンス部

会陽甚句

吉備人



閉会挨拶

50周年実行委員会委員長 井上 裕嗣





祝 社団法人西大寺青年会議所 創立50周年記念式典・祝賀会

創立50周年記念式典・記念祝賀会の開催

2010年9月26日(日)、ホテルオークラ岡山、瑞光の間にて、社団法人西大寺青年会議所創立50周年記念式典及び記念祝賀会を開催させていただきました。当日は、県内外からご来賓の皆様をはじめ、他LOMの皆様、そして敬愛する特別会員の皆様の多数のご出席を賜り、おかげ様で大変盛況な会を開催させていただきました。昨年よりの準備期間を経て、西大寺青年会議所らしい周年式典とはどのようなものなのか、そして地域のために行動する青年会議所の記念祝賀会はどうあるべきなのか、メンバー全員で話しあい、私たちの考えうる限りにおいて最高の式典・祝賀会を開催すべく、全力を尽くしてまいりました。ご参加いただいた皆様から、すばらしい式典だった、とお言葉をいただき、いままでのさまたげな思い出がよみがえるにつれて、あまりの嬉しさに涙してしまいましたが、この式典と祝賀会を経験したことで、想いを込めて事業を行うことの大切さを再認識すると共に、今後も誠実に地域のために運動していく決意を新たに致しました。式典終了後、第2代理事長の野口先輩を訪問させていただいた際に、「君たちは、青年会議所から大きな贈り物をいただいたのだ」とご教示をいただき、あらためてあの日の感動を噛みしめ、この胸に残る感動の記憶を私たち現役会員だけのものとせず、次の5周年、60周年を行う後輩たちに継承していかなければならない、と強く感じました。最後になりましたが、ご協力いただきました全ての皆様に心からの感謝を申し上げます。皆様、本当にありがとうございました。

50周年実行委員長 井上裕嗣



発行に伴いご協力頂いた方々に感謝致します。

発行日 平成22年10月吉日

発行責任者 小川 大志

発行責任者 一井 暁子

編集責任者 長谷川 豪範

発行所 社団法人西大寺青年会議所